

© 職業感染制御研究会

エピネットサーベイランスによる 皮膚・粘膜曝露の疫学

感染制御研究会 JESWG2013
 (エピネット日本版サーベイランスワーキンググループ2013)
網中真由美 (国立看護大学校)
 吉川 徹、李 宗子、木戸内清、黒須一見、森澤雄司
 満田年宏、和田耕治

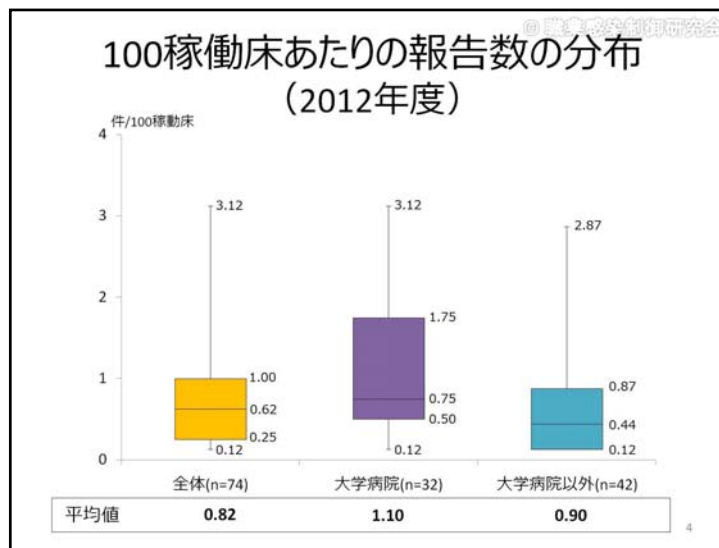
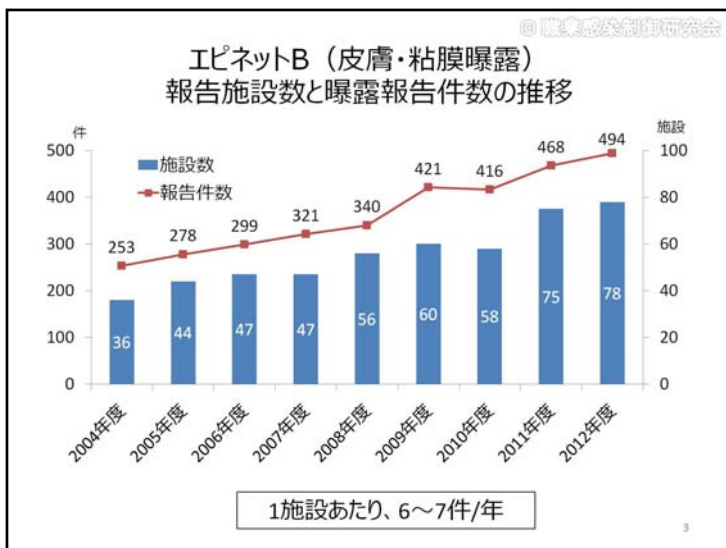
1

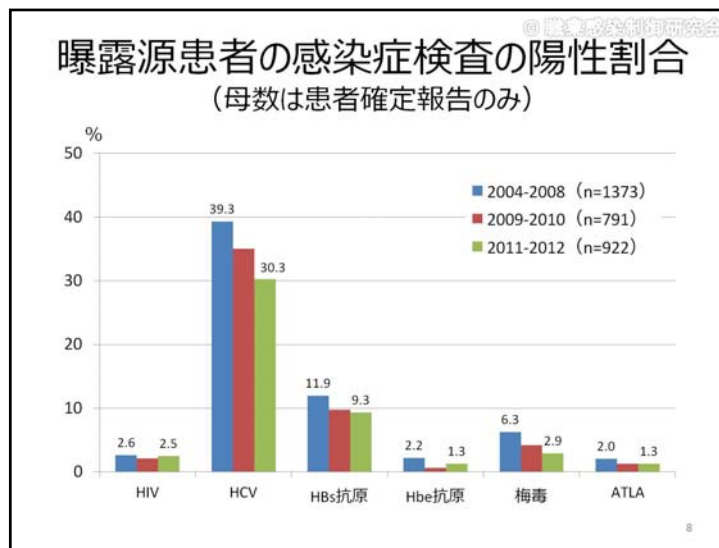
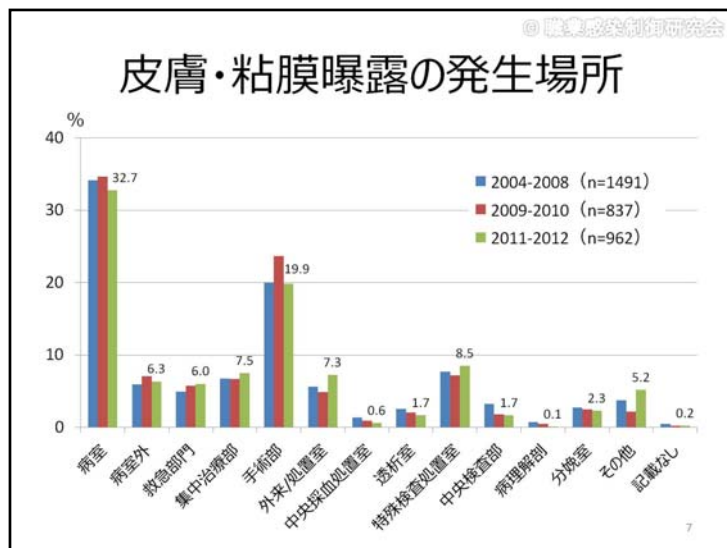
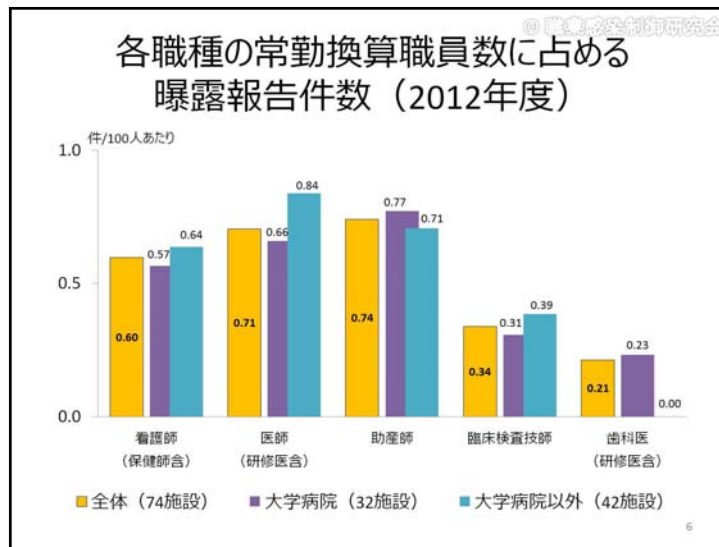
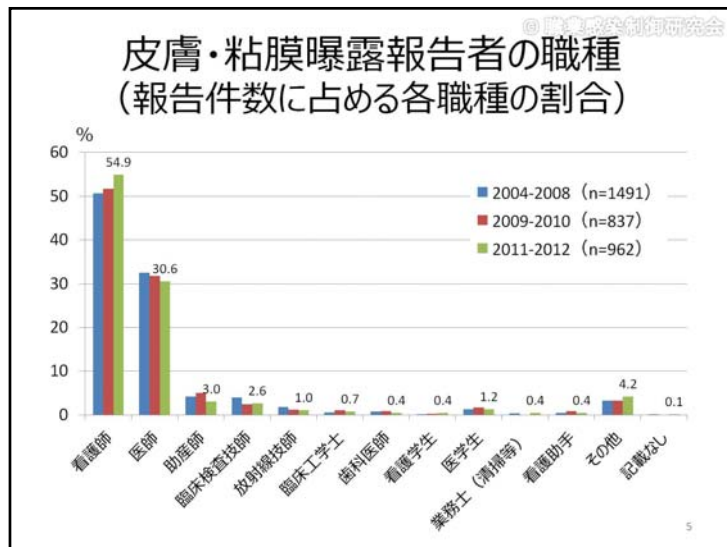
© 職業感染制御研究会

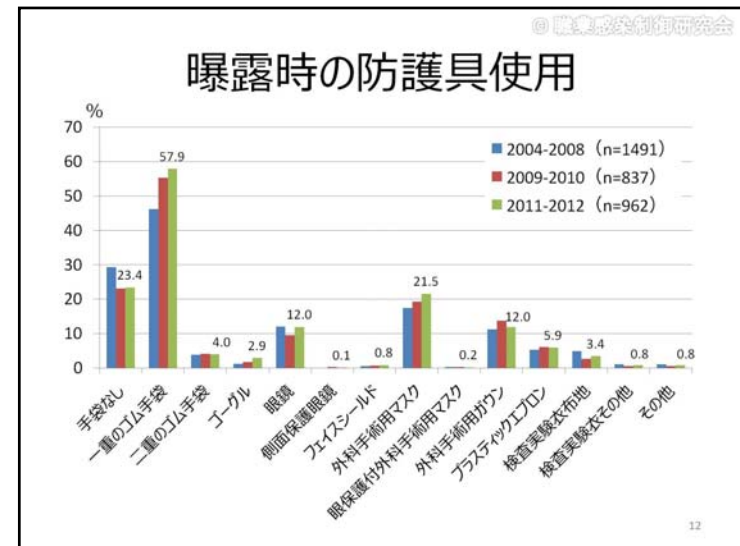
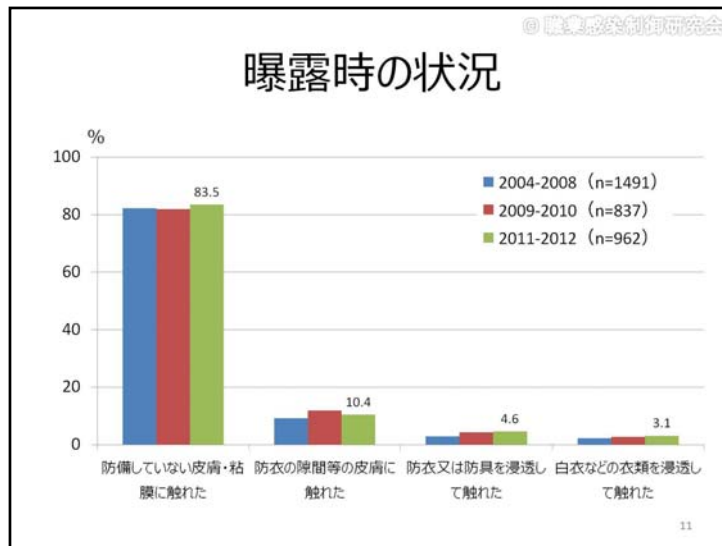
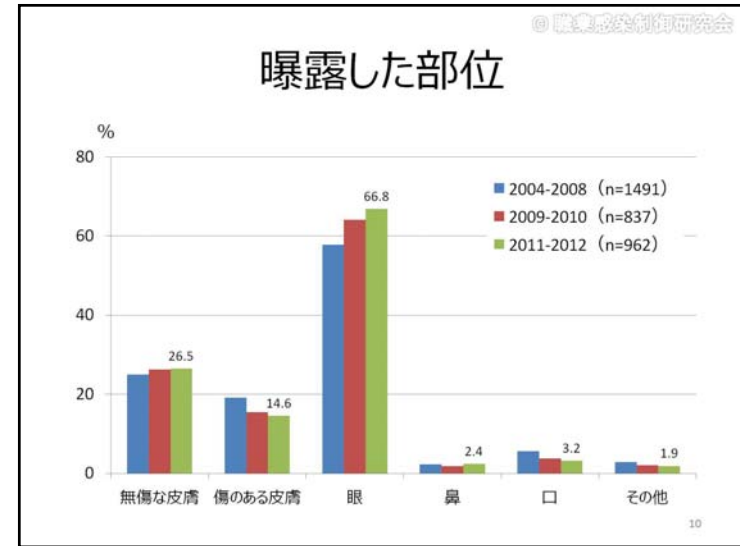
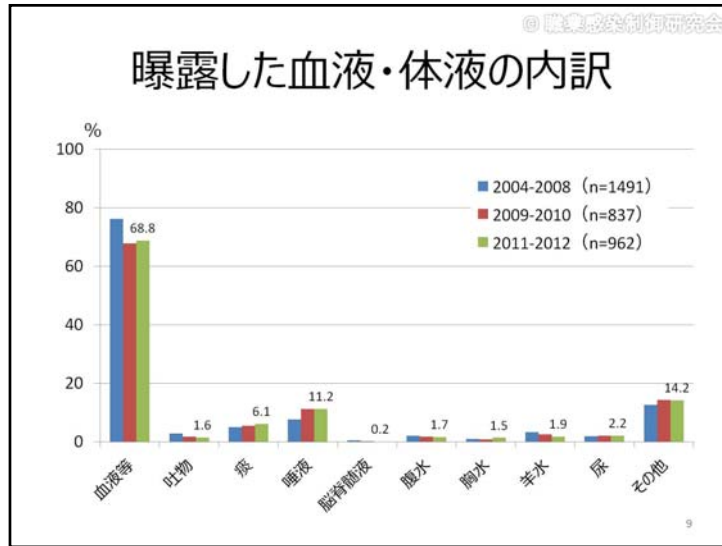
エピネット日本版サーベイランス2013 (JES2013) エピネットB (皮膚・粘膜曝露)

- JES2013対象施設 : 118施設
 エピネットB提出 : 78施設
 2011年4月1日～2013年3月31日：962件 (2年間)
 (2004年4月1日～2013年3月31日：3290件 (9年間))
- 施設調査アンケート提出 : 88施設
- エピネットBおよび施設調査アンケート提出施設 : 74施設
 平均実稼働病床数：652床 (範囲：226-1261)
 平均病床利用率 : 84.3% (範囲：65.1-102.5)

2







個人用防護具の導入状況 (n=74)

個人用防護具	導入
ディスポーザブル手袋	100%
サージカルマスク	100%
プラスチックエプロン（袖なし）	100%
プラスチックエプロン（長袖）	75.7%
ディスポーザブルガウン	94.6%
ゴーグルなどのセーフティアイウェア	98.6%
フェイスガード付きマスク	93.2%

部署別の個人用防護具の整備状況

	ディスポ 手袋	サージカ ルマスク	ディスポ エプロン	ディスポ ガウン	セーフティ アイウェア	フェイスガード
一般病棟 (n=64)	100	98.4	100	70.3	59.4	64.1
救急部門 (n=66)	100	100	97.0	90.9	66.7	80.3
集中治療部門 (n=60)	100	98.3	98.3	91.7	66.7	73.3
手術部門 (n=64)	100	100	90.6	87.5	89.1	96.9
外来診察室 (n=63)	100	96.8	92.1	58.7	49.2	57.1
透析室 (n=63)	100	95.2	100	68.3	79.4	61.9
内視鏡室 (n=63)	100	100	93.7	98.4	79.4	77.8
分娩室 (n=57)	100	98.2	89.5	96.5	66.7	77.2

まとめ

- 皮膚粘膜曝露の報告**
 皮膚粘膜曝露報告は、1施設当たり6~7件/年であった。2012年度の100稼動床あたりの報告は約1件である。大学病院の100稼動床あたりの報告数の75%タイル値は大学病院以外の約2倍(1.75件)と高い傾向を認めた。
- 曝露者の職種**
 報告件数に占める割合では看護師、医師の順で多いが、各職種別常勤職員数に占める割合では助産師、医師、看護師が他の職種に比べて多い。
- 発生場所**
 病室が最も多く、次いで手術室が多い。

まとめ

- 曝露源の感染症陽性割合**
 HCV陽性が全体の30%以上を占める。しかし経年的に曝露源患者の感染症陽性割合は低下傾向にあり、曝露源の感染症の有無にかかわらず報告する事例が増加している。
- 曝露物質と曝露部位**
 報告者の60%以上が血液に曝露し、60%以上が眼への曝露を報告している。眼への曝露は他の部位への曝露に比べてより重大な事象として認識されている。

© 職業感染制御研究会

まとめ

- **曝露時の状況と防護具**
 報告者の約80%は防備していない皮膚・粘膜に曝露している。
 手袋とマスクの使用割合は増加しているが、曝露報告部位として最も多い眼を保護するゴーグルなどのセーフティアイウェア、フェイスシールド付マスクはあまり使用されていない。
- **個人用防護具の導入状況**
 手袋、サージカルマスク、袖なしプラスチックエプロンは調査したすべての医療機関で導入されていた。ゴーグルなどのセーフティアイウェア、フェイスシールド付きマスクも9割以上で導入されている。
 部署別では、手袋はすべて部署で整備されていたが、セーフティアイウェアは手術部門を除いては6～8割弱の整備状況である。

17

© 職業感染制御研究会

【注意事項・免責事項】

- 本プレゼンテーション資料の著作権は、職業感染制御研究会に帰属します。
- ユーザーは、これら（一部あるいは全部を問わず）を医療を提供する現場において医療従事者や職員の教育や指導のために使用する場合、使用可能です。
- 商用のための複製、公開、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳、転載、再利用を禁じます（当研究会の企業会員が利用する場合には、ご相談に応じます）。

18